

2012年 8月5日・「朝日新聞」読書面では

## 脱原発・自然エネルギー 218人詩集 若松丈太郎ほか〈編〉

脱原発に関わる詩の歴史の記録をめざして編まれたアンソロジー。海外の詩人を含む218人の作品を収める。福島県南相馬市に住む若松丈太郎は40年ほど前から、原発の危険性を詩や散文で訴えてきた。なかでも1994年の詩「神隠しされた街」は、福島原発の事故を予知したとされる作品だ。避難命令がだされ、住民が神隠しにあったように消えてしまった空虚な都市の情景を幻視している。英訳も収録。(コールサック社・3150円)

と紹介されています。